

令和6年度 高志高等学校 学校評価書

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
自ら学ぶ生徒を育てる	生徒自らが問いや課題を設定しながら学びを進める過程を通し、主体的・対話的で深い学びを実現する。	多くの生徒が課題を自ら見つけ、主体的に学習できていると認識しており、子どもの学習に取り組む姿勢に対する保護者の満足度も高くなっている。	- 主体的に学習に取り組めるよう、学習の見通しをもったり、学習したことを振り返ったりして、自身の学びや変容を自覚できる授業・活動を取り入れていく。 - 家庭学習時間調査や面談等を充実させ、生徒の学習習慣の一層の定着を図るとともに、自ら問いを立て、主体的に学ぶ意欲を喚起する。
	探究創造科にふさわしい授業づくりや学習指導計画の作成に取り組む。	ほとんどの生徒・教職員が、深く考えたり対話したりする活動・授業を実施していると意識している。特に生徒の意識が高く、自己の考えを広げ深める対話的な学びができています。	対話する必然性のある課題を設定するなど、授業改善の取組を継続していくとともに、学習指導要領や新傾向の大学入試等を念頭に置き、校内研修会を通して、指導法の共有や検討等、更なる授業研究を継続していく。
		- 学習支援、探究活動、学校行事、中高一貫教育に関わる学校の取組について、ほとんどの保護者が満足しており、その割合は昨年度より上昇した。 - ほとんどの教職員が探究創造科のあり方への検討を継続しており、新しい知見を加えながら授業づくりを行っている教職員の割合が増加した。	- 今後も、学習支援、探究活動、学校行事、中高一貫教育についての検討を、学び手である生徒の視点も取り入れながら中高の教職員で更に進めていく。 - 今後も、教科会や校内研修会で、SSHの取組の経験を取り入れながら、探究創造科にふさわしい授業や学習指導計画について、検討を継続していく。
	SSH・SGHネットワークの取組(課題研究・各種研修・講演会・コンテスト等参加等)により、生徒の探究力や課題解決能力を高める。	- 取組により自らの探究力や課題解決能力が高まったと感じている生徒、および生徒の探究力や課題解決能力を高められたと感じている教職員は、いずれも目標指数を達成した。特に「A」評価は、生徒・教職員とも昨年度および一昨年度と比べ10ポイント程度上昇し、強い肯定感が現れている。また、取組が有意義だと思うと答えている保護者も目標指数を達成した。全般的に取組が良好な形で行われ、三者から肯定的な評価がされていると判断できる。 - 探究系の各種コンテストやフォーラム等に生徒が主体的に参加し、全国レベルおよび県レベルで上位に入賞するなど、生徒の主体性とともに探究力も向上していることが実証されている。	- 教職員に対する探究学習に関する教員研修会、チェックリストや評価ルーブリックを活用した課題研究指導の徹底、各教科における探究的学習活動等の更なる拡充を図る。 - 探究活動の意義を機会あるごとに生徒に伝え、活動に取り組む意欲・態度を更に高める。探究に関する各種コンテストやイベント、学会等へ積極的に参加するよう、引き続き生徒に呼びかける。必要に応じて大学教員等の専門家に生徒自ら助言を依頼するなど、生徒の主体的な取組を促す。 - 課題研究や各種研修、コンテスト等の成果について保護者により多く理解してもらえよう、ニュースレターやウェブサイト等による広報を拡充する。
自ら考え責任を持って行動する生徒を育てる	ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事等において、生徒が主体的に活動できる場を提供する。	「主体的に行動する力を養い、リーダーとしての人材を育成することが十分にできた」と回答した教職員の割合が、昨年度より増加した。 - 生徒全員が参加するホームルーム活動・学校祭、及び生徒が任意で参加する生徒会活動・部活動のどちらも「積極的に取り組んでいる」と回答した生徒が目標指数を大きく達成した。また、保護者からも同様に高い評価が得られた。 「思いやりや助け合いの精神を持ち取り組むことが十分にできた・おおむねできた」という生徒がほとんどであった。また、教職員も「他者への配慮や協調性のある人材を育成すること」に十分高い意識を持って取り組んだ。	- 部活動や学校行事等の学校教育活動においては、生徒が主体的に取り組めるよう、生徒との関わり方や支援のあり方について教職員間で意思疎通を図っていく。 - ホームルーム活動・生徒会活動・学校祭行事等では、生徒が主体となった話し合い等の場を積極的に設定する(例:ホームルーム、生徒代議員会、生徒会執行部)。また、それらの活動の中で生徒が提案した事柄に対しては、生徒と教職員間の意見交換等を十分に行った上で、生徒の提案が実現できるように取り組み、生徒の主体的に活動する姿勢、リーダーとしての資質を育成する。 - 生徒活動全般で起きる諸問題に対して、生徒同士で解決・対処法が見い出せるように支援・アドバイス等を行う。また、いじめを含む気になる行動等の問題が起きた場合には、教職員間で共有し組織的に早期対応にあたる。
	生徒活動全般で起きる問題事案(いじめ等を含む)に対して早期発見に努めるよう教職員間で共有・連携をはかり、対処・支援にあたる。		
	心身の健康に配慮できる生徒を育てる。	- ほとんどの教職員が、生徒の健康状態を把握し、対応することができたと回答し、目標を達成した。 - ほとんどの生徒は、健康な生活に必要な行動をとることができたと回答し、目標を達成した。 - 保護者の大多数が、生徒の病気やけがに対して、学校は適切な対応を行っていると評価した。	- 職員会議等の機会を捉えて、健康に配慮すべき生徒について共通理解を図り、全教職員が生徒への支援を行う。 「心の健康」に関するポスターを掲示したり、保健だよりを定期的に発行したりして、健康への意識を高める啓発活動を行う。 - 保健委員による衛生管理(石鹸・消毒液等の補充)や啓発活動(換気・マスク着用等の呼びかけ)を通して、健康を保持増進するための行動を促す。

生徒の夢・希望の実現を支援する	生徒自身が興味・関心を把握し、掘り下げることで、進路目標を明らかにし、進路目標実現に向けて努力を続けるための支援を行う。	・生徒一人ひとりに適切な進路目標を持たせるために生徒理解に努めることのできた教職員は高い割合を維持している。また、生徒一人ひとりに、より高い進路目標を持たせることができたと回答した教職員の割合も目標指数を上回った。 ・「一人ひとりがより高い進路目標を持ち、その実現に向けて学習に取り組む」と回答した生徒は増加傾向ながら、目標指数をやや下回った。 ・進路選択に関する行事等が参考になったと回答した生徒は3学年とも目標指数を上回った。	・大学の教員を招聘し、研究者から直接大学の紹介や大学での研究について話を聞く機会をもつことで、生徒自身の進路に関する意識を高める。 ・今後も、大学が実施する公開講座やオープンキャンパスへの参加を、更に積極的に参加するよう生徒に働きかける。 ・GoogleClassroomを活用した情報提供や、生徒がどこを見れば必要な情報を得られるか、わかりやすい情報提供に努める。 ・他校(藤島・武生)との合同企画を計画を行うなど、生徒の進路意識の高揚に努める。 ・今後も、各学年が行っている進路学習を、高校3年間のキャリア教育全体計画の中に位置づけ、3年間を見通した体系的な進路支援に努める。
	各教科担当者が、大学入試問題、大学入試改革等の研究と分析を通して、生徒一人ひとりの進路目標に合わせ、目標実現に必要な学力向上のための支援を行う。	・5教科のほとんどの教員が共通テストの問題分析を行っている。 ・5教科の全教員が模試の見直しを行っている。 ・難関大および地元大の個別試験分析を行った教員の割合が目標指数を下回った。「何もしなかった、および一部の問題しか分析をしなかった」と回答した教員が若干増加した。 ・模試実施後の見直しを行っている生徒の割合は1・2年生、3年生とも、目標指数を上回った。	・今後も共通テストの問題分析を全ての教員が引き続き行っていくように務める。 ・個別試験の分析を更に進め、普段の授業、考査、課外での指導に反映させる。 ・予備校等が開催する入試問題検討会等へより多くの教員が参加できるように努める。 ・個別試験の問題分析が十分でない教員に対し、問題分析の重要性を認識できるよう働きかけ、生徒への指導の充実を図る。 ・今後も、模擬試験の見直しを生徒に更に強く働きかけ、模擬試験受験の効果を最大化できるよう努める。
豊かな情操の涵養	朝読書週間、図書館講座、ビブリオバトル等の行事や掲示物、広報紙等の発行を通して読書意欲を喚起し、図書館利用および読書量の増加を図る。	・読書意欲を高めるための様々な取組を年間を通して継続的に行った結果、特に年間貸し出し冊数や図書館利用者が増加した。 ・「図書館だより」に目を通してしている生徒が減少した。 ・保護者の多くが「子どもはあまり読書をしていない」と回答しており、読書離れの傾向が読み取れた。	・今年度実施した具体的取組のうち、朝読書以外の活動は参加者が限られた活動である。より多くの生徒に図書館に親しんでもらうため以下の取組を行っている。 ・「図書館だより」がより多くの生徒の目に留まるものになるよう、電子版にしてオンラインで配信する等、より実効性の高い発信方法を検討する。 ・生徒が図書館に足を運びやすくなるようランチタイムコンサートやミニ講演会などのイベントに力を入れる。 ・購入図書を選定に際し、生徒の興味・関心に応じたものになるよう図書委員会を通じたリクエストの募集など新たな方法を検討する。
安心して学べる環境	相談環境を整備し、カウンセリング等をいつでも受けることができるようにする。	・ほとんどの教職員が、悩みを持つ生徒に適切に対応したと回答し、目標を達成した。 ・ほとんどの生徒が、悩みを相談できる人が校内にいと回答し、目標を達成した。 ・「子どもの悩みや不安などに寄り添う学校の対応が不十分である」と回答した保護者の割合が、過去2年よりも増えた。	・職員会議等の機会を捉えて、教職員全体に対し共通理解を図り、気がかりな生徒への声かけや対応を引き続き行う。 ・学校全体で支援していく体制を整えるためにスクールカウンセラーや外部機関との連携を強化するなど、相談活動の充実に努める。 ・担任等による定期的な面談や「いじめアンケート」等を通して、今後も生徒の悩みや不安などの早期発見・早期対応に努める。
	清掃活動等を通して、校内美化のために自ら考え主体的に行動できる。	・ほとんどの教職員が、環境美化指導を行い、目標を達成した。 ・生徒は、校内の環境美化活動に積極的に取り組んでおり、目標を達成した。 ・保護者の大多数が、校舎内外の環境美化が「よく」または「ほぼ」行き届いていると評価し、目標を達成した。	・環境美化活動を通して、生徒とともに清潔で快適に過ごせる環境を維持する。 ・ゴミの分別やゴミの持ち帰り習慣が定着していくように啓発活動を行う。 ・美化委員による掲示物の作成や放送連絡(呼びかけ)等を通して、更なる環境美化のための行動を促す。
	保護者と学校との連携を充実させるとともに、生徒が防火防災を意識し、安心・安全な学校生活を送れる環境づくりをする。	・ほとんどの生徒が防災意識の大切さを理解していると答え、防災に対する取組は十分できていると考えられる。 ・ほとんどの保護者が本校のPTA活動などの取組に満足していると答え、保護者と学校との連携が十分できていると考えられる。	・今年度の防災訓練の反省点をふまえて、次年度の防災訓練の実施方法・実施時期などを検討し、更に生徒の防災意識を高められるようにする。 ・保護者と学校との連携がとれるように、今年度と同様に活動を継続していく。
ICT活用の促進	授業や校務においてICTを積極的に活用する。	・本年度は、教職員の校務用パソコンが新しい機種に更新され、より校務に活用しやすい環境になった。授業での活用は教科を問わず進んでいる。また、デジタル採点も時短や効率化に効果をあげている。一方でWiFi環境を筆頭に経年による不具合も多く発生しており、そのことが活用の妨げになっている課題がある。	・校務用パソコンが更新されたことで、ほとんどの教職員が新しいシステムへの対応や、操作に何らかの難しさを感じている。そのような状況に対し、マニュアル等の配布や個別支援等を引き続き行っていく。
働き方改革	- a 定時退庁日の完全履行 - b 長期休業日の「学校閉庁日」の増加 - c 「早出・遅出勤務」の導入 - d 職員会議の時間短縮 - e 年休の取得推進 - f 業務改善リーダーの提案に基づき、積極的な業務改善のアクションにつなげる。	・教職員の働き方改革の取組の必要性について、大多数の保護者からの理解が得られている。 ・超過勤務削減のための業務の見直しやワークライフバランス実現のための休暇取得について、昨年度よりも教職員の積極的な取組意識が低下した。	・引き続き、保護者の理解を得ながら、教職員の働き方改革や業務精選の取組を進めることで、教職員の心身の健康維持のみならず、授業改善や新しい学校づくりに対応する時間を確保できるよう努めていく。
総合	国際社会および地域社会に貢献する知徳体の調和のとれた人材を育成する。	・自身の活動が「学校や社会を良くすることにつながる」と回答した生徒が大きく増加しており、各種活動に意欲的に取り組む生徒の姿がうかがえる。 ・大多数の生徒が「学校に通うことが楽しい・充実している」と答えている。	・今後も、探究活動や部活動、生徒会活動等、生徒の意欲的なチャレンジを積極的に応援する。 ・学校生活の様々な場面で、リーダーとして活躍したり、他者と協働してより良いものを作りあげたりする機会を設けることで、自己肯定感・有用感を高めていく。